

次期基礎調査において実施する調査の考え方（案）

資料3-1

- 令和5年度から10年間で実施する次期自然環境保全基礎調査は、以下の3つの役割（①～③）を踏まえ、過去に実施してきた調査を「**調査計画検討の観点**」と「**調査実施の観点**」から整理を行い、総合的な判断の上、決定することを想定している。
- 今回、「**調査計画検討の観点**」と「**調査実施の観点**」の項目等について他に考え得るものがあるか、専門的視点からご検討頂きたい。

基礎調査の役割

① 自然環境の現状把握・情報基盤

- 日本の自然環境の現状を捉える
 - 悉皆性：全国をカバー
 - 多様な対象（調査）：多くの種、生態系等をカバー
 - 基礎資料のデータバンク：汎用性の高い基礎情報として蓄積され幅広く活用

② 社会・政策課題への対応

- 時代によって変化する課題

③ 自然情報と政策・意思決定をつなぐインターフェース

- 基礎調査成果を活用した解析
 - 多様性の状態
 - 危機の状態
 - 対策の優先順位 など

調査計画検討の観点

1. 独自性・類似性・代替性

- 生物多様性センターが実施する基礎調査以外の調査の整理
- 他機関等による調査：代替性、類似性の整理

2. 社会・政策課題（ニーズ）

- 今後10年程度の社会・政策課題（例：OECM、鳥獣害等）に応える上で必要なもの

3. 調査実施のタイミング

- 前回調査からの経過年数：基盤情報の蓄積状況

今回（資料3-2）

調査実施の観点

1. 調査実施体制、 2. 調査設計(新技術の適用・調査スケール/精度)、 3. 調査期間

調査実施の観点の詳細と総合的な判断内容については、次回部会で検討

次期基礎調査で実施する調査の決定